

特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン

A B L E
A R T
J A P A N

2022年度 事業報告
[期間:2022年4月1日～2023年3月31日]

2023年6月17日

■2022年度 事業報告

□ [2022年度を振り返って]

エイブルアート・ムーブメントの現在地

2020年度から私たちの活動は、コロナ禍やウクライナ戦争から派生する社会不安のなかで、改めて重要な役割を得ていると感じる。ウィズコロナの活動のなかでは、移動困難、対人恐怖、医療等が必要な在宅生活などの障害のある人自身がオンラインツールを活用した創造・鑑賞等の場の参加が増え、表現し、発言し、そして協働し、活動を取り巻く人びとに厚みがでてきている。活動が「孤独や孤立の防止」につながっているのではないかと内閣府の関連調査の対象にもなった。

2022年秋、エイブル・アート・ムーブメントの提唱者である播磨靖夫さんが文化功労者を受章した。記念講演では「可能性感覚としてのエイブルアート」の意味と、「時代の感覚に鋭敏であれ」「幸福度の追求とは、いのちへの問いからはじまる」など言葉のギフトが私たち聴衆に贈られた。「新しい運動には新しい言葉がいる」として、批判をおそれずにエイブルアート・ムーブメントを社会の芸術化・芸術の社会化として提案したその精神と活動にまなび、私たちは私たちなりの時代感覚で真摯に社会に向き合い、活動したいと今、改めて思う。

[2022年度の行動指針]

● NPOの理念と支援への協力を発信(基盤のリニューアル)

エイブルアートの理念、そして活動の今を知っていただき、ファンをつくり、共感をバネに協働者や会員、寄付者を増やしていく挑戦を継続します。オンラインサロン、事業報告会のオンライン化、そのアーカイブと発信などです。またウェブサイトのリニューアルに取り組み、SNSの更新と連動していきます。

● オンラインによる未来志向の実践(再掲)

オンラインは、物理的な空間をこえて対話できることを実感できる利点もあります。この時代に私たちが与えられたひとつのメディア(道具)として、オンラインともうまくつきあっていくような知恵を、とくに障害者・生活困窮者・高齢者等のNPOの現場とも共有します。学習支援環境の劇的な変化が先行する子ども支援、教育支援NPOにたくさんのヒントがあるはずです。異業種の活動に学びながら実践を高めます。

● 社会に生じる新たな‘障害’に向き合い、その課題解決を通じて事業(仕事)を生む(再掲)

コロナ禍、社会に生じる‘障害’に向き合い、その課題解決にむけて活動していたら、いつの間にか事業が生まれ、また支援の輪が広がりました。NPOの財源バランスにとって重要な、自主事業～自ら仕事をおこし、持続していくための事業を、このターニングポイントにこそ開発していきます。

● 組織基盤の強化(再掲)

2019年度の振り返りのなかで課題になった点「組織基盤強化」に着手したいと考えています。法人の運営を担う中堅職員の雇用、法人の各種規程の整備と改訂、そして会員の仕組みについての見直し等です。理事やスタッフ、第3者を含めてワーキングチームをつくり取り組みます。

[スタッフ体制]

● 法人本部/東京事務局

・西田まや(常勤/2022年8月～)

広告代理店にてアートディレクター、芸術療法 臨床美術士養成講座 講師を経て、現在ミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。(専任)

・内野悦子(非常勤/2015年9月～)

法人事務局の経理、労務を担当。

・原衛典子(非常勤/2019年4月～)

家業の経理事務、飲食業に従事。法人の広報活動およびミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

・平澤 咲(非常勤/2019年4月～)

福祉事業所にて手織りと紙漉きの創作サポートとケア、都内公園にて誰もが参加できる体験プログラム企画やアクセシビリティに

携わる。ミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

・今野優紀(非常勤/2021年8月～)

デザインの展示施設にて展覧会の企画アシスタント、障害のある人の表現活動を社会に伝えるプロジェクトにて展覧会事業を担当するなど、主に展覧会の制作やマネジメント、コーディネートを務める。現在はミュージアム・アクセス・センター設立事業を担当。

● 東北事務局

・伊藤光栄(常勤/2021年6月～)

特別支援学校教員やイラスト制作会社、遊漁船業を経て、2021年6月からエイブル・アート・ジャパンに従事。主に、障害者の生涯学習事業、障害者芸術活動支援センター事業、エイブルアート・カンパニー事業を担当。

・高橋梨佳(常勤/2022年5月30日～)

元生涯学習施設のバリアフリー担当職員。過去3年間、エイブルアートの各種事業にボランティアとして参加。2022年5月から法人の事業全体を担当。

・伊藤いづみ(非常勤/2021年6月～)

2018年から家族とともにエイブルアートのアトリエ & スタジオに参加。オープンアトリエ事業、ショップ事業、東北事務局の経理・総務を担当。

● エイブルアート・カンパニー東京事務局

・大井卓也(常勤)

一般財団法人たんぽぽの家所属。2020年12月からエイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。

・中塚翔子(常勤/2016年7月～)

社会福祉法人わたぼうしの会所属/一般財団法人たんぽぽの家出向。エイブルアート・カンパニー東京事務局の業務を担当。(2022年8-12月まで育休取得後、2023年1月より時短勤務)

・小林加奈(非常勤)

エイブルアート・カンパニープロジェクトスタッフ。月8日程度勤務。

デザインに関わる仕事に長く携わり、アート巡りが趣味。カンパニーアーティストとのやりとりをはじめ、提案書の作成や展示パネルのデザインも担う。

□ [スタッフ体制]をふり返って

- ・事業の拡大に応じて、常勤職員を2名増員。東京事務局5名(常勤1・非常勤4)、東北事務局4名(常勤3・非常勤1)。
- ・常勤スタッフは、職歴や経験値をもとに、チーフ職として、事業の申請や企画提案、進行管理、予算管理などにマネジメントに従事した。
- ・コロナ禍、在宅勤務やフレックス制を継続した。コミュニケーションツール(Google Workshopやslackなど)を活用し、各事業のタスク管理をオンライン上で行い、これを事務局長ほかスタッフが常時確認できるようにした。
- ・東京と東北の合同スタッフ会議をオンラインで月1回開催。上半期は組織全体の事業への理解、情報交換を実施し、後半は、活発化する事業にあわせて、具体的な連携を促した。

✕印:未着手、▲印:部分的に実行

[総務]

1. 会議等の業務

(1)第11回通常総会の開催

日時: 2022年6月18日(土)14:00~16:00

・ オンラインミーティングシステムZoom会議室

- ・ 2021年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認
- ・ 2022年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の承認

(2)理事会の開催

- 第22回:2022年5月18日(木)18:30~20:30
オンラインミーティングシステムZoom会議室
- ・ 2021年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認
- ・ 2022年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の検討 ほか
- 第23回:2022年11月1日(火)18:30~20:30
上半期の事業報告、東京事務局移転に関する協議 ほか

2. 会員に対する業務

- ・ 会員の入会、継続、休会に伴う業務
- ・ 2021年度事業報告・活動計算書および2022年度事業計画(案)・活動計算書(案)の送付
- ・ ニュースレターと事業案内を発送(年2回)およびウェブサイト、SNSによる発信強化

3. 経理などの業務

- ・ 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、よしみパートナーズ会計事務所(東京)
- ・ 運営基盤の確立のために月次ごとの収支計画をたて、確実に遂行 ▲(半期ごとのペースにとどまる)
- ・ 税務に関する業務として、法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務

4. 労務管理などの業務

- ・ 法人でスタッフを雇用するための準備
- ・ 法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮
- ・ 各種規程・規則の変更を検討、職員給与の検討 ▲ハラスメントの禁止、職員の休日、教育訓練の詳細は未着手

5. 総務関連などの業務

- ・ 業務運営に必要な届出業務
- ・ NPO法人としての東京都への2021年度事業報告・活動計算書の提出(総会后6月末完了)
- ・ 当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

6. 広報・寄付キャンペーンなどの業務

- ・ ウェブサイト、フェイスブック、データベースを活用した広報活動
- ・ 寄付キャンペーンの実施、会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンの実施 ▲寄付サイトは更新済、会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンは未着手
- ・ データベースの活用:組織内で運用方法のルール化をすすめる。個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付の呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報などの発信・申込み管理などを実施 ▲法人本部のウェブサイトの改訂は、2023年度に専門家と方針の決定を行う(助成金取得・済)

* 事業パートナー:北田郭時(広報・ウェブサイトの更新で事務局運営をサポート)

・情報収集・発信(2022年4月~2023年3月) * 新聞等メディア実績は別冊参照

＜ウェブ媒体＞		投稿数	アクセス数
東北事務局	ホームページ	110	38,689
	Facebook(フォロワー1,100人)	196	14,586

	Instagram(フォロワー256人)	93	3,036
	Youtubeチャンネル(登録者数81人)	3	703
法人本部	ホームページ	53	1,784(※)
	Facebook(フォロワー4,653人)	128	9,428
	Instagram(フォロワー538人)	14	
みんなでミュージアム	ホームページ	27	3,742(※)
	Facebook(フォロワー102人)	44	
	Instagram(フォロワー66人)	18	

※2023年1月17日～3月23日の数値(契約しているレンタルサーバーのアクセス管理機能廃止により、2023年1月17日以前の記録はカウントできていない)

7. その他

- ・ 複数のNPOが事務所を共有する場合のルール見直し～地代家賃、賃借料、通信費、営業報酬や人件費
- ・ 東京事務局の縮小や移転を、アトリエ活動拠点とのバランスを考えながら検討する

● 事務所移転に伴う特記

法人本部の住所変更に伴い、令和5年度の会員総会で、定款の変更を行う。

事務所およびアトリエ等の環境整備のために、東北は宮城県の助成金(2022年度取得)、東京は港区の助成金(2023年度・申請中)に応募した。

■東京事務局:2023年3月に転居

・千代田区の議会決定により、アーツ千代田3331の耐震工事に入るため入居全団体が退去しなければならない旨の通知が2022年2月にあり。

・アトリエは、ポレポレは月1回、芸大は月2回。事務所の近隣に、活動スペースを確保できるようにする。

【NPO法人エイブル・アート・ジャパン/エイブルアート・カンパニー東京事務局】

〒108-0074 東京都港区高輪2-15-24 三愛ビル竹館2階203号室

Tel.03-6277-2802



東京事務局

■東北事務局:2022年7月に転居

・現在の事務所の入居者の親団体(一般社団法人NOOK)が、法人本部を東京に移動したことにより、7月末をもって退去するため移転の検討に入る。アカデミア事業(生涯学習事業)で使用してきた仙台市中心部の商業施設の空きスペースへの移転を検討し、交渉が成立し入居した。

・この施設には、同じフロアに、アトリエ、人形劇、アカデミア事業が可能なスペースがあり、加えてギャラリー、Fab工房、配信スタジオがある。

【NPO法人エイブル・アート・ジャパン/エイブルアート・カンパニー東北事務局】

980-8546 仙台市青葉区一番町3-11-15 仙台フォーラス7階

tel 070-5328-4208 fax 022-774-1576



東北事務局

□ [総務]部門をふり返って

(1) 総会、理事会、会員に関する業務の体制の見直し

- ・スタッフ体制が充実し、理事会や総会資料、会員向けニュースレターの作成を分担することができている。
- ・会員へのニュースレター発行および会費業務には、ボランティア(障害のある人含)も参加。
- ・事業の理念への共感から、新規会員が微増。逆に、会費未納などにより自動的に退会扱いも微増。企業会員とは、具体的な事業実践(スカラシップ事業)や、新たな協働(社員向け研修)に向けてコミュニケーションを継続。

(2) 総務、経理の体制の強化

事業規模の拡大に合わせ、支払い業務などのスケモレを防ぐよう仕組みを見直し、それを継続している。また2021年度に課題となった、国の委託事業(とくに文化庁・文科省)決算時の業務対応のため、内部人材で体制の見直しをはかったが、1-3月の引越しと重なり一部のスタッフに大きな荷重がかかった。23年度はさらに体制を見直し、業務の分散化をはかる。新規従事者は会計事務所の研修に参加する。

(3) 広報まわりの体制の強化

現在、ウェブサイト・Facebook・Instagram・YouTubeチャンネルなど多様な広報メディアを使用している。それぞれの特性と広報戦略について、今一度、学びの機会をもち、NPO活動にとって最適な手法や持続可能な運営を探る。23年度に専門家が伴走する(R5助成金獲得済)。

・スタッフ自らが、活動を言語化し、それをウェブやSNSで発信し、かつ外部メディアに寄稿したり発表をした。

[企画事業]

□ 事業のハイライト

・東京事務局は「ミュージアム・アクセス・センター設立事業」(文化庁助成)は、初(令和2)年度の調査・ヒアリングの結果をベースに、2年目(令和4年度)は、具体的な実践および事業提案のフェーズにうつった。相談支援、人材育成(手法検討)、実践、ネットワーク化とを並走し、3年目活動後の自走化をめざして活動している。

・東北事務局は、宮城県の支援センター事業は5年目、文科省「障害者の生涯学習に関する実践研究」と厚労省「障害者芸術文化活動普及支援事業 南東北・北関東広域センター」事業が2年目となった。福祉・文化・教育・経済分野を横断した中間支援組織の活動として、また地方都市発からの実践活動として、とくに自治体関係者からの問い合わせや相談が多い。

1. A/A gallery事業

・「Hand in hand-つながる-」10人のグループ展を開催(2022年10月29日~11月29日)

・「3331 ART FAIR 2022」(アーツ千代田3331)に出展

会員である、やまなみ工房、工房まる、クラフト工房うまの、たんぽぽの家アートセンター-HANA、Good Job!センター香芝、所属の作家を紹介した。



Hand in hand

2. A/A shop事業

□ 方針

ネットワーク化、人材育成に資するもの、収益が見込めるものに限って対応した。

□ 内容

Fujisakiday(2022年6月11日・12日@八木山動物公園フジサキの杜)

せんだいクラシックフェスティバル(2022年10月1日~3日@日立システムズホール)

暮らしの市2022夏(2022年7月23日・24日)、秋(2022年11月12日・13日)@塩竈市杉村惇美術館

第5回障害と芸術文化の大見本市(2023年2月10日~12日@せんだいメディアテーク)



暮らしの市2022夏

3. エイブルアート・スタジオ事業

□ 方針

A.運営委員会による独立採算事業を実施する。

B.セミナーやサロンなど、人が集う場や企画を実施する。

■東京会場

会場:アーツ千代田 3331(東京都千代田区)



エイブルアート芸術大学

活動名	ファシリテーター	活動日	登録メンバー数、参加費
アトリエ・ポレポレ	サイモン順子	毎月第2、4土曜日 13:30～17:00	登録メンバー:25人 年会費5,000円 1回2,500円
エイブルアート芸術大学	中津川浩章(AAJ理事)	毎月第2日曜日午後 14:00～17:00	登録メンバー:30人 年会費3,000円 1回2,500円

ポレポレの運営は渡辺一充さん、芸大の運営は石川さん・宮原さんと、家族・ボランティアが中心。
「アーツ千代田 3331」の閉館に伴い、2023年3月をもって会場を変更した。

■東北会場

会場: 仙台フォーラス7階 エイブル・アート・ジャパンフリースペース、even(仙台市青葉区)



【東北】
レポート公開中！

「アトリエつくるて」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
創造	定期的な創作活動	佐竹真紀子(美術作家)、しょうじこずえ(アーティスト)	年7回(うち2回は人形劇との同時開催)	80人、1,000円
発表	「作品展示のワークショップ」を実施。参加者自らが作品に合う額のサイズを検討し、マット紙を切って額装する体験とフリースペースで展示作業を行った。		作品展示のワークショップ:3/19 展示期間:3/20-3/31	出展者9人、1,000円

「みんなでつくるよ広場の人形劇！」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
創造	定期的な創作活動	工藤夏海(美術家)、佐々木桂(造形作家)、ほかゲスト/専門家	年7回(うち2回は人形劇との同時開催)	58人、1,000円
発表	・地域の多彩なイベント等へ参加し、人形のパレードを実施。 ・クリスマス会でグループによる即興劇を披露。		パレード:年4回 クリスマス会:年1回	パレード参加:無料 クリスマス会:1,000円

2018～2021年度までは東京2020オリンピックパラリンピック競技大会に伴う仙台市文化プログラムとして実施し、2022年度から公益財団法人仙台市市民文化事業団の助成事業に申請し採択。継続して実施することができている。

4. エイブルアート・カンパニー事業

□ 方針

「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を展開する。

□ 内容

(1)基盤整備

- ・ 既登録の作家のうち3名の作家が、生活環境の変化や高齢化などに伴い契約を解除することになった。結果、現在公開している登録作家／作品数は119名／12,663点。
- ・ 東京事務局は、これまで入居していた「アーツ千代田 3331」の閉館に伴い2023年3月16日をもって新住所・港区への移転を行った。
- ・ 社会的な潮流による追い風もあり、新規の企業などからの問い合わせが増加しているほか、継続的に協働している



カンパニーweb

企業とも新たな展開を生み出すことができた。

・ 3法人4事務局間のコミュニケーションツールの活用や情報共有、業務のタスク管理の継続。

(2) 著作権マネジメント

・社会的な潮流による追い風もあり、新規の企業などからの問い合わせが増加しているほか、継続的に協働している企業とも新たな展開を生み出すことができた。

□ ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

CSR活動の一環として障害のある人のアートを取り入れたプロジェクトを行いたいとの相談を受け、株式会社フクフクプラスとの2社共同により、オフィスの各所に複製画を展示する「アートレンタル」の取り組みをスタートした。また、アーティストを紹介するビデオを作成し、国内外のオフィスにシェアするなどの取り組みを行った。

□ トヨタ自動車株式会社

新たな取り組みとして、トヨタ自動車が以前より取り組んでいるアマチュア・オーケストラを対象とした応援事業「トヨタコミュニティコンサート」とのコラボレーションを行った。仙台、奈良の二つのコンサートで障害のあるアーティストによるロビー展示を行ったほか、来年度の取り組みに向けて、コンサートのバナー制作などを行っている。

・オンライン会議のバーチャル背景への作品使用や、NFTアートに関する取り組みなど、デジタル社会の需要に応えるような新しい形での作品使用にも柔軟に取り組んでいる。

□ 株式会社 THE DOG COMPANY

犬猫の保護活動の支援と、NFTアートを結び付けた新たなチャリティプログラムを行いたいとの相談を受け、所属アーティストによる描き下ろしNFTアートを作成するプロジェクトに取り組み始めている。



トヨタコミュニティコンサート

(3) アーティスト個人にフォーカスを当てた取り組みの企画・実施

・作家との密な連携を図りながら協働を行い、多様な描きおろしへの対応を継続した。

・作品の二次利用だけでなく、より作家本人の創作や人間性に視点を向け、直接的なサポートにつながる事業を実施。アーティストとしての成長を促すとともに、作家個人の周知や社会への進出に向けたマネジメントを行った。

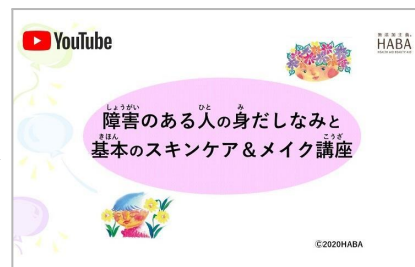
□ MHD Artists Scholarship Program (MHDアーティスト・スカラーシップ・プログラム)

法人会員であるMHD(モエヘネシーディアジオ)Public Affairs & CSRとの取り組み。エイブルアート・カンパニーの登録作家に加え、社員交流したアーティストから、スカラーシップ対象者を募集。作家の実現したい夢を、社員が先行し選出。オンラインにて、アーティストによる成果報告、受賞者と社員が交流し抱負を語る時間が生まれた。3年目は、東京ほか国内のオフィスで作品を展示し、作家と社員が交流。また作家の作品や商品のECサイトを通じた販売・オークションが実現した。

(詳細)<https://www.ableartcom.jp/>

(4) メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、株式会社ハーバー研究所(美容部、経営企画部宣伝・PR課)との共同開発事業。福祉事業所、家で取り組める動画の配信と教材の提供を行う「オンラインメイク講座」を継続。受付、教材費回収、アンケート回収などの業務を行う。



【メイク講座】
詳細はwebへ

5. 鑑賞支援事業

(1) 美術と手話プロジェクト

- ・ プロジェクトメンバー定例会議(月1回)
- ・ 手話通訳の提供、美術館、企業、行政、教育機関等との連携事業
- ・ 株式会社能作のインクルーシブファクトリーツアーの企画提案



美術と手話web

・武蔵野美術大学GGP (Glass × Geibun Project) 2022の展覧会におけるアクセシビリティ

・東京都教育委員会聴覚障害者教養講座の講師

・インクルーシブデザイン勉強会の実施(講師:梅田亜由美)

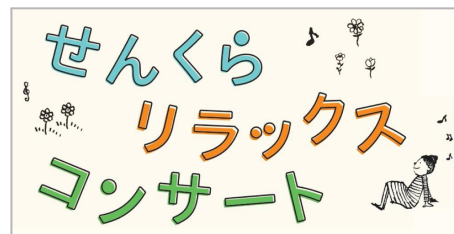
* 事業パートナー: 西岡克浩(プロジェクト代表/AAJ会員)、市川節子(手話通訳士)、太田好泰(AAJ会員)、和田みさ(手話通訳士)、田中真理子(手話通訳士/大学学生支援)、柴崎由美子(AAJ理事)、高橋梨佳(AAJスタッフ、2022年6月～)、小谷野依久(2023年3月～、新規)

(2)企業・社会貢献事務局&首都圏の美術館等 鑑賞 運営サポート

企業社員によるボランティア活動に「障害者特別鑑賞会」がある。その事業の現地鑑賞会に手話通訳派遣にて協力した。期間:2022年夏～春 2回実施(1回定員に満たず中止)

(3)仙台クラシックフェスティバル2022街なかコンサート「せんくら・リラックス・コンサート2022」運営サポート

障害児者等を対象としたクラシックコンサートを初開催するのにあわせ、広報・アクセス・鑑賞などの支援を行う。(宮城県障害者芸術活動支援センター業務)
日時:2022年8月28日(日)2回公演



リラックスコンサート
ショートムービー



(4)六本木アートナイト関連企画 インクルーシブ・アート プログラム 企画運営

2022年リアル開催およびオンライン開催を各1回実施

期間:2022年9月17日(土)～19日(月祝)

全体総括:六本木アートナイト事務局

企画協力・コーディネーター:NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

連携:厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

プログラム①:オンライン鑑賞会「みんなdeおしゃべり鑑賞会-六本木アートナイト-」

●日時:9月18日(日) 18:00～20:15

●会場:オンライン

●対象:オンライン鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10人程度)

●内容:見えない人、聞こえない人との対話鑑賞を通し、オンラインでの作品鑑賞体験とその可能性の模索。

●鑑賞会のグループメンバー

リドユーザー:光島貴之(AAJ理事)、山川秀樹、西岡克浩(AAJ会員)

手話通訳士:和田みさ、村山春佳

ミュージアムサポート:森美術館 白木栄世

プログラム②:鑑賞ツアーde大冒険! -六本木アートナイト-

●日時:9月19日(月祝) 14:00～16:00

●会場:現地(六本木ヒルズ)

●対象:視覚障害のある人、聴覚障害のある人、車椅子やベビーカー等を利用する人、鑑賞会に関心のあるすべての人(定員10人程度)

●内容:見えない人、聞こえない人との対話鑑賞を通し、インクルーシブな作品鑑賞体験とその可能性の模索

●鑑賞会のグループメンバー

リドユーザー:井戸本将義、南雲麻衣

手話通訳士:佐藤晴香、丸山垂穂、和田みさ

ミュージアムサポート:森美術館 白木栄世



鑑賞ツアーの下見の様子

(5)舞台芸術鑑賞サービ `ス ショーケース&フォーラム2022 企画協力

主催:文化庁、一般社団法人日本障害者舞台芸術協働機構(JPDA)の事業に宮城県障害者芸術活動支援センターとして広報やトークディスカッションに協力した。

2022年10月11日(火)、12日(水) 宮城野区文化センター(パトナシアター)

【1日目】短編演劇作品の上演とトークディスカッション

【2日目】インクルーシブシアターを目指していくための研修

(6) せんだいメディアテーク 展覧会「定禅寺パターゴルフ??? 倶楽部!! ～協働と狂騒のダブルボギー(2打オーバー)」企画運営

せんだいメディアテーク(宮城県仙台市)から展覧会(会期:2023年1月11日～2月5日)の開催にあたり「多様な市民を巻き込むために企画に協力してほしい」との相談を受け、多様な市民として「障害のある人たち」を想定し、関連イベントの企画・運営、展覧会の広報活動のサポート、会場構成や運営の助言などで協力を行った。(宮城県障害者芸術活動支援センター業務)

▼4つの関連イベント(企画・運営:SOUP)

【A】勝負の手がかりは音!? 見えない人・見えにくい人と一緒にプレーを楽しもう!!

日時:2023年1月20日(金)10時30分～12時30分

対象:イベントに関心のあるすべての人

協力:障害者地域活動推進センターきりん(NPO法人アイサポート仙台)

参加者数:26人(視覚障害者12、ヘルパー7、晴眼者7)、スタッフ・ボランティア:8人

【B】サイレントなゴルフ場!? 手話や筆談でプレーを楽しもう!!

日時:2023年1月21日(土)10時30分～12時30分

対象:イベントに関心のあるすべての人

協力:みやぎデフキッズクラブ

参加者数:26人(聴覚障害あり5、聴覚障害なし20、見学1)、スタッフ:4人

【C】家族対抗!! パターゴルフ大会!!

日時:2023年1月29日(日)①10時30分～11時30分 ②13時30分～14時30分

対象:高校生以下のお子さんをふくむご家族

協力:障がい者サポーターズGolazo!、尚絅学院大学

①参加者数:15人(障害あり5、障害なし10)

②参加者数:18人(障害あり4、障害なし14)

スタッフ・ボランティア数(①②合計):9人

【D】いろいろキャディー大集合!! キャディーとおしゃべりしながらコースをまわろう!!

日時:2023年1月28日(土)14時～16時

対象:イベントに関心のあるすべての人

キャディー:視覚障害者1、発達障害者1、知的障害者・ダウン症1、AAJスタッフ3



サイレントなゴルフ場!?
手話や筆談でプレーを楽しもう!!



【展覧会の記録映像】
関連イベントA,Bの記録は
0:10:25から

(7) 横浜能楽堂 バリアフリー能シア会 協力

文化庁委託事業相談支援からの実践。バリアフリー能終演後の障害種に限定せずインクルーシブな場で感想を話す会。初めての試みに企画監修の依頼にて実施。

日時:2023年3月21日(火・祝)

会場:横浜能楽堂

対象:「バリアフリー能」を鑑賞した人

担当:手話通訳:丸山垂穂、和田みさ、エドゥケーター梅田亜由美(AAJ理事)

6. 企画制作事業

【全国】

(1) ミュージアム・アクセス・センター設立事業

2年目の活動となる2022(令和4)年度は、ミュージアム・アクセス・センターの試験的実践期として事業モデルを首都圏(東京・埼玉)・京都・宮城にて実施した。日本中のミュージアムにおけるアクセシビリティの改善と向上を目指し、センターの基盤整備に取り組んだ。3年目となる2023(令和5)年度は、全国展開へのネットワークをつくる。



【みんなミュージアム】
レポート公開中!

【ワーキンググループ】みんなでミュージアムメンバー(外部)3人 事務局6人

【実施事業】

- ミュージアム・アクセス・コーディネーター実践(埼玉・宮城)7件
視覚障害／さいたま市大宮盆栽美術館
視覚・聴覚障害／さいたま市立漫画会館
視覚・聴覚・知的・発達障害／せんだいメディアテーク
- ミュージアム・アクセス・パートナー実践(東京・京都・宮城)7件
知的障害・自閉症／東京
視覚障害／京都
視覚・聴覚・知的・発達障害／宮城
- みんなでミュージアムメンバーによる事業化定例会議:11回
- 人材育成会議(有識者との意見交換・情報交流・勉強会):9件
- 相談支援 相談件数33件
- オンラインによる情報交流学びのわの創出:年7回
運営会議:(内部)10回、(外部):3回
- シンポジウム:1回
- 提言活動:年4回



コーディネーター実践
(さいたま市大宮盆栽美術館)



パートナー実践(東京)

【東北】

(2)障害者の生涯学習をテーマにした実践研究

令和4年度は、文部科学省「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」を受託し、以下の事業に取り組んだ。

- 連携協議会3回
- プログラム「スウプノアカデミア」7回(検討会2回、実践5回)、成果報告会1回
・東北事務局や仙台市生涯学習施設およびオンラインにて、主に土曜または日曜の午後に実施。
・プログラム参加者合計130人(うち当事者57人、ボランティア7人)
・成果発表会参加者合計38人(うち来場者9人、オンライン視聴9人、発表者7人、ボランティア3人)
- 共に学び、共に生きる共生社会コンファレンス 東北ブロック
会場:せんだいメディアテーク1階オープンスクエア、7階スタジオシアター、一部オンライン配信で実施。
参加者合計:148人
来場者(第1部52人、第2部46人)、オンライン22人(平均視聴者数)、発表者・講師7人、ボランティア3人、手話通訳者3人、要約筆記3人、配信5人、運営スタッフ7人
・「第5回障害芸術文化の大見本市」にあわせて開催



【スウプノアカデミア】
レポート公開中!



【コンファレンス第2部】
アーカイブ映像公開中!

* 事業パートナー:仙台市生涯学習課/特別支援教育課/障害企画課、仙台市生涯学習支援センター、鶴谷特別支援学校、せんだい・みやぎNPOセンター、みやぎ生協、NPO法人ポラリス、東北大学石井山竜平研究室、尚絅学院大学佐々木健太郎研究室、櫻井育子(生涯発達支援塾tane)、佐竹真紀子(一般社団法人NOOK)、他

(3)宮城県・障害者芸術活動支援センター運営(受託事業)

①相談支援

宮城県内のべ 66個人/団体、宮城県外のべ 56 個人/団体 合計 122個人/団体
相談件数139件(前年度107件/前年度比130%)

相談回数736件(前年度415件／前年度比177%)

②芸術文化活動を支援する人材の育成等

■SOUPの研修(全4回)

第1回「暮らしの市 夏 出店してみた！マーケティング編」

第2回「暮らしの市 秋 出店してみよう！商品提案編」

第3回「地域の企業と協働する～作品の二次利用の際に気をつけるべき視点とは」

第4回「鑑賞するって楽しい！せんくら・リラックス・コンサートができるまで」

■音楽・演劇・舞踊に関する領域の活動＊

ダンスワークショップ「響と踊ろう」(仙台会場・山形会場)

＊厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業との連携事業として実施

③関係者のネットワークづくり

「地域格差の解消に向けた取り組み」「文化芸術団体との協働の促進」「生涯学習としての協働の促進」の3点に注力して実施。

④発表の機会の確保

催事名：第5回 障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、して、見本市。」

日時：2023年2月10-12日 10:00-20:00(12日のみ18:00まで)

会場：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア他

内容：①「障害と芸術文化のブース」②「ワークショップ・舞台芸術体験」(1. 小さな人形をつくって、舞台上で即興劇をしてみよう！／2. フラットシアターフェスティバル多感覚演劇「フェスタ！」体験版／3. インクルーシブスポーツキャラバンmini) ③「南東北・北関東ブロック障害者芸術文化活動支援センター研究発表会」④「共に学び、生きる共生社会コンファレンス東北ブロック」、障害のある人の学びの場「スウブノアカデミア」の令和4年度活動報告展 ⑤「ひだまりのギフト展」⑥「としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示」

来場者数：1,213人(3日間)

【実施主体】① ⑤令和4年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務 ②-1 ファ

シリテーター：みんなでつくるよ広場の人形劇！共催：みやぎ県民文化創造の

祭典実行委員会、②-2 共催：NPO法人アートワークショップすんぷちよ、②-3協力：障がい者

サポーターズGolazo!、尚絅学院大学 ③令和4年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支

援事業 ④文部科学省委託事業令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」(主催：

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン、文部科学省、共催：仙台市教育委員会、せんだいメディアテーク) ⑥

主催：仙台市民図書館、せんだいメディアテーク

⑤地域への主たる広報

＜紙媒体＞	障害と芸術文化の大見本市チラシ
・学校(仙台市管轄)	仙台市特別支援学校・特別支援学級：生徒数2,845人
・学校(宮城県管轄)	宮城県特別支援学級：児童・生徒数2,508人、宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含：生徒数2,520人
・福祉、文化、教育関係機関(宮城県)	仙台市内福祉施設292件、宮城県内福祉施設571件(それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み)
・行政、美術館、図書館等文化施設(仙台市)	仙台市市民センター、区役所 障害高齢課、仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置



【SOUPの研修】
レポート公開中！



【響と踊ろう】
レポート公開中！



【見本市】
レポート公開中！

(4)その他 宮城県在住の障害者アーティストの支援(国内外の展示発表・二次利用等)

- ・展覧会「線のしぐさ」(2022/4/23～ 6/26、東京都渋谷公園通りギャラリー、東京都):松浦 繁(仙台市)
- ・展覧会「こんなにも、大切な。」(2022/9/26～2023/1/23、るんびにい美術館、岩手県):浅野春香(仙台市)、奏(仙台市)
- ・「Hand in handーつながるー」10人のグループ展(2022/11/1～11/29、A/A gallery、東京都):浅野春香(仙台市)
- ・「トヨタコミュニティコンサート」ハワイエ展示(2022/11/20、名取市文化会館、名取市):奏(仙台市)、堀江望海(仙台市)、清水敬太(仙台市)、多夢多夢舎中山工房(仙台市)
- ・宮城県障害福祉課「ふれあいフェスティバル」(2022/12/7～12/9、宮城県庁、仙台市):奏(仙台市)、堀江望海(仙台市)、多夢多夢舎中山工房(仙台市)
- ・アトリエつくるて「つくるて Gallery」(2022/3/19～3/31、SOUP、仙台市):アトリエつくるてメンバー8人
- ・青葉通まちづくり協議会「AOBADORI MACHI to HATARAKU」タイトル、のぼり、ノベルティなどに作品採用:國分悠太(はまゆう、仙台市)
- ・仙台フォーラスのSDGs × Able Art Japan「SDGs Workshop No.12 シルクスクリーンで作るオリジナル●●」プリントデザインに作品採用:かつん(アート・インクルージョン、仙台市)
- ・仙台市「障害理解啓発に関する広報業務」のウェブサイトや動画に作品採用:佐々木英明(はまゆう、仙台市)
- ・仙台市新生児誕生祝福事業「杜っ子のびすくプレゼント」ギフトの一部商品に作品採用:サクラ姫(サブカルビジネスセンター、仙台市)
- ・第40回「全国都市緑化仙台フェア」にて販売するオリジナル商品に作品採用:北野絵里、竹内聖太郎、佐藤真彦(3人も多夢多夢舎中山工房、仙台市)
- ・特定非営利活動法人シャプラニールの販売するジュートバッグに作品採用:佐々木英明(はまゆう、仙台市)
- ・コメダ珈琲で提供している豆菓子パッケージに作品採用:清水敬太(アート・インクルージョン、仙台市)
- ・トヨタ自動車東日本「ウィーンプレミアムコンサート」横断に作品採用:加藤晴彦、佐藤琉星、山岸俊介、小島志穂、阿部未憂、北村敏行(わらしべ舎羽黒台工房、仙台市)

など

・Fujisakiday

日時:2022年6月11～12日 9:00-16:00

会場:八木山動物公園フジサキの杜

内容:八木山動物公園の命名権(ネーミングライツ)契約を結んでいる百貨店・藤崎が主催で開催したイベント「Fujisakiday」に障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)として、以下の取り組みで協力した。

「Fujisakiday」ロゴデザインに使う作品の作家を紹介

期間限定ショップ『社のマルシェin八木山だずー!』の企画・運営

シマウマ「エル」の作品公募と展示(作品を商品に使用)



Fujisakidayロゴ

【北関東・南東北エリア】

(5)障害者芸術活動支援センターの北関東・南東北広域支援センター運営

南東北・北関東ブロックは、6県のうち4県に障害者芸術文化活動支援センター(以下、支援センター)があり、2県が未設置である。障害者芸術文化活動普及支援事業以後、令和3年度にブロックの支援センターがはじめて設置され、令和4年度は2年目の活動となった。支援センターとして、宮城県(平成26/2014-)・栃木県(平成29/2017-)・福島県(平成31/2019-)・山形県(令和2/2020-)、「準備室」として茨城県(令和3/2021-)・群馬県(令和4/2022-)が活動した。



【広域センター】
詳細はwebへ

- ブロック支援センター連絡会議(全5回オンライン)
- ブロック支援センター研修(全5回オンライン)
- 群馬県および茨城県の支援センター立ち上げと業務サポート
- 舞踊領域に関する企画運営(舞踊に関するまなびの場の創出)
- 美術領域に関する鑑賞活動の企画運営(対象6県の支援センター職員等の研修を兼ねた参加支援)
- 広域センター、連携事務局との協働、評価と報告

* 事業パートナー:武田和恵(社福愛泉会ギャラリーら・ら・ら/やまがたアートサポートセンターら・ら・ら/山形/AAJ会員)、岡部兼芳・小林竜也(社福安積愛育園/はじまりの美術館/福島)、梶原紀子・五味潤仁美(認定特非もうひとつの美術館/とちぎアートサポートセンターTAM/栃木/AAJ会員)、小堀幸子(社福北養会いばらき中央福祉専門学校、特非ちいきの学校/茨城)、津田優希(ROKUROKURIN合同会社/茨城)、吉田征雄(特定非営利活動法人あめんぼ/群馬)、

〔国際交流〕

（6）国際交流__交換留職プログラム（ベトナム Tohe×AAJ）

日本とアジア新興国の社会的企業/NPO の知見共有を目的とした「交換留職プログラム」を行う NPO 法人クロスフィールズ（トヨタ財団助成）との協働事業。

ベトナムの障害児者の文化芸術活動を支援する社会的企業ToheとAAJ相互の事業見学、スタッフ間交流、現地でのプログラム実施、事前事後の研修を通し、知見共有（事業運営、組織運営等の観点等）とミドルマネジメント層の育成を行った。また、留職期間後にはリーダー層の意見交換会や合同報告会での成果発表、ToheとGoodjob!センターの企画事業に発展した。

・留職期間：2022年5月14日～6月9日：平澤 咲（弊法人）ベトナム/ハノイ
2022年6月9日～25日：Mingさん、Thangさん（Tohe）日本/奈良・仙台・東京

・合同報告会（オンライン）：2022年9月28日 24人参加
・費用：留職者の旅費（渡航費・国内移動費）、日当、通信費、その他（予防接種代、海外保険、渡航用ビザ）は助成金にて支出。一部、それ以外のスタッフ研修を兼ねた費用のみ法人で支出した。



たんぽぽの家の活動に参加する
Toheスタッフ

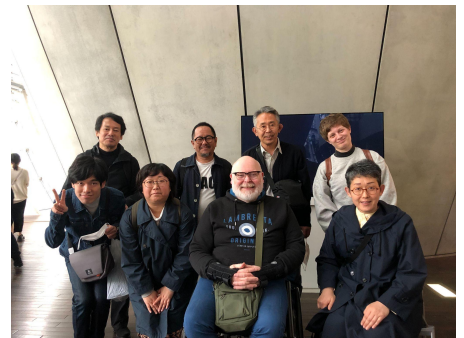
（7）その他

・イギリス

イギリスのSHAPEARTSからの仲介により、美術家・ジェイソン・ウィッシャー・ミルズさんと日本の作家との交流を実施。国内の障害のある作家6人等とメンタリングセッション（オンライン）、東京のアトリエ見学（芸大）、美術館鑑賞を通じた交流を行った。ジェイソンさんは、引き続き国際的な交流と、日本の作家・作品のイギリスでの紹介を計画している。

・韓国

国民日報のジャーナリスト孫英玉さんが来日し、エイブル・アート・ジャパンとたんぽぽの家、Good Job! センターを訪問。日本の民間の動きと政策が交わる環境に関心をもち、これからの韓国の活動の活性化に向けて国際フォーラムを企画している。



ジェイソンさんと国立新美術館にて

7. 調査研究事業

2022年度はなし。

8. 出版事業

2022年度はなし。既存の書籍は販売する。

9. 助成事業

- ・フェリシモによる寄付「小さなアトリエ基金」を継続。
基金の拠出先は、Line project（大阪府）、風の芸術村（岐阜県）。

10. その他目的を達成するために必要な事業

・宮城県「令和4年度合理的な配慮のための環境整備促進事業補助金」

補助金に申請し交付決定を受け、設備の整備と研修事業を実施した。

【目的】2022年7月30日より、仙台の商業施設であり文化発信の拠点でもある仙台フォーラスに東北事務局の事務所を移し、さまざまな障害のある人たちや家族、支援者やボランティア等と県民が、芸術文化活動や生涯学習の場として気軽に

立ち寄り、相談・交流できるスペースを作るための環境整備。

【設備の整備】

- ①肢体不自由の人へのドアノブの取り付け
 - ②視覚障害のある人への点字つき看板、入り口に点字つきマットの設置
 - ③聴覚障害のある人への筆談ボード、対話型拡声器の設置
 - ④発達障害、知的障害、精神障害のある人へのカームダウンスペースの設置（気持ちが落ち着く壁紙への貼り替え、ソファやパーテーションの設置）、イヤーマフの設置
 - ⑤さまざまな障害のある人や県民が気軽に相談できるウェルカムポイントの設置、テーブルの制作
- 【研修事業】仙台フォーラスの設置管理者を対象に、障害のある来館者対応の研修を実施。研修の記録動画を制作。

● ボランティア・インターンの受け入れ、事務局サポーターの設定

- ・ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていくよう試みた。とくに東北事務局でそれが充実した。
- ・日本NPOセンターとコードフォーージャパンによる「STO（ソーシャルテクノロジーオフィサー）プロジェクト」からの派遣受入を継続した。
- ・障害者芸術活動支援センター@宮城のウェブサイトのリニューアルにあたって、STOのアドバイスを参考に進行した。2022年7月にリニューアルが完了。

● エイブル・アート・ムーブメントの協働団体との連携

- 一般財団法人たんぽぽの家による事業への協力
- ・「New Traditional」事業、「Art for Wellbeing」事業 ほか

● 報告に関連する参考資料（添付）

- ・2022年度広報・メディア掲載実績
- ・2022年度講座・執筆活動

以上。